

院長 コラム



一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

④9

地域医療構想



市民病院
院長 神谷里明

効率的で、しかも良質な医療提供の仕組み作りのためのツールとして地域医療構想というものがあります。これを実現化するために県と市町村、地域の医療機関が集まり「地域医療構想調整合会議」を開催し、協議しています。

「地域の医療・介護」ニーズに対応するために、どのような医療提供体制が望ましいのか。医療機関を役割に応じて3つの機能に分けています。

1つ目は急性期（高度急性期）機能、2つ目は亜急性期（回復期）機能、3つ目は慢性期（療養病床＋介護サービス＋在宅）機能です。それぞれの機能のベツドがその地域においてどれだけ必要か。そして各医療機関が連携し、地域の人をどう支えるかを話し合っています。

今後高齢女性の入院が増加していきます。主な疾患としては脳血管疾患、肺

炎、心不全、骨折などがあり、病気が重なり、繰り返したりすることもあります。そしていずれは終末期が訪れます。今後の多死社会を迎えるにあたり、高齢者の最後の数年間をどこで、どう過ごすのかみんなで考えなければなりません。

前回在宅医療についてお話ししました。在宅とは？大きくは居宅（現在自分が住んでいるところ）と施設に分けられます。そして住むところの確保と生活を支える仕組みが必要です。生活を支える仕組みとしては「食の確保」、「買い物支援」、「移動手段の確保」などが必要で、その中で食について考えると栄養管理が重要です。栄養不足では免疫力や筋力が低下し誤嚥性肺炎、骨折が増加します。逆に栄養過多による糖尿病の発症、悪化も考えられます。食は非常に大切なことです。

在宅を支える仕組みとしてケアマネジャーや訪問看護の力が必要です。在宅を続けるためには本人、ご家族に安心感を与える必要があります。必要ときに介護支援が受けられ、入院も含めた医療支援が受けられる。そのような体制がなければ在宅を続けることは困難です。病院、診療所、施設、訪問看護、ケアマネジャーなどがネットワークをつくり、常に患者さん、家族の方々の情報を共有できる体制づくりが必要であり、現在構築中です。